

【目的】 中高齢者の咀嚼能力について、高齢者になるほど、また食品の噛みごたえ度が大きくなるほど咀嚼できる者の比率が低下すること、義歯装着者の方が健全歯の者よりも咀嚼に困難を感じている者の比率が高いことなどを、既に昨年の本学会で報告したが、これらの中高齢者が好む食品と咀嚼の可否について、また歯についてどのようなことに不便を感じているか等についての調査結果を集計した。

【方法】 岡山県浅口郡里庄町立里庄東小学校、同里庄西小学校の児童を介して、その祖父母752名を対象に、歯の状態、咀嚼可能な食品、好まれるが咀嚼困難な食品、歯について児童が祖父母祖達より教えられたことおよび児童の感想を質問紙法により調査した。今回はこれらのうち、既に報告した歯の状態と咀嚼可能な食品を除く上述の調査結果について報告する。

- 【結果】 1. 「好きな食品」として挙げられた食品は126種、902件であったが、最も好まれたものは魚（刺身以外、125件）で、以下 野菜(76)、刺身(65)、果物(65)、肉類(46)の順になっており、これらの5種類の食品で全回答数の40%強を占めた。
2. 「好きだけれども咀嚼困難な食品」がある者は回答者の70%以上にあり、挙げられた食品は60種、399件であった。最も咀嚼困難とされた食品は するめ(92)、以下肉(45)、豆(33)、せんべい(27)、りんご(27)の順であった。
3. 歯に関して困ったことは、義歯(58%)、以下齧蝕(22)、歯肉(7)、治療(5)に関するこの順であった。